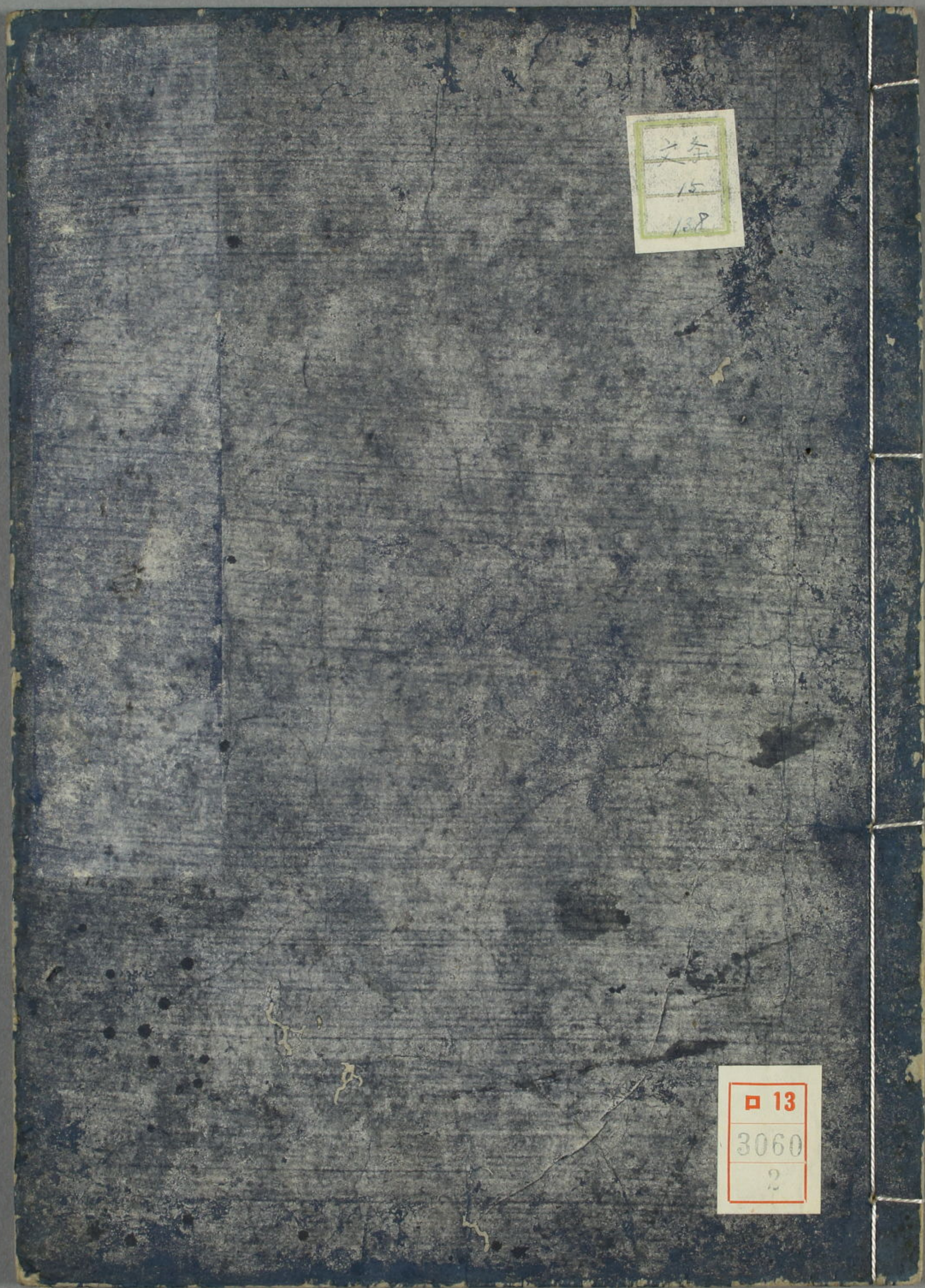




文
15
108

□ 13
3060
2



門 18
3060
2



但来先生答同書中



一
經涉之何角^レ也。穿鑿^ニ之何^レ也。但法^ノ人^ノ之^レ美
別^ニ其^レ辨^ニ必^ニ不^レ忘^レ其^レ心^ノ也。成^レ法^ノ之^レ下^ニ也。法^ノ也
其^レ法^ノ有^レ之^レ。不^レ仕^レ法^ノ也。有^レ之^レ。依^レ法^ノ之^レ吟^ニ味^ニ
其^レ不^レ叶^ニ事^ニ也。經^ニ涉^ニと^レ後^ニ人^ノ多^ク人^ノ其^レ仕^レ形^ノ也
其^レ計^ニと^レ吟^ニ味^ニ仕^レ也。通^ニと^レ不^レ得^ニ過^ニ之^レ也。苟^ニ非^ニ其^レ人^ノ
乃^ニ不^レ忘^ニ其^レ事^ニ有^レ之^レ法^ノ人^ノ其^レ肝^ノ要^ニ也。其^レ也。

條々。物々。かゝるにせらる。心次第。細膩なり。
物と氣遣心は。ろき。ろき。は金次第。細なり。
過失と咎。事甚しくて。下とも過失なき。抑一
切。今時。此役人。是。面。も過失な
き。心。子。も。是。今世。の
俗。心。得。人。物。毎。踏。也。深。入。事。や。よ。や
。事。一。は。され。人。も。是。見。も
。下。も。御。先。祖。の。時代。の。事。や。是。
今。の。世。も。是。也。其。時。は。名。も。人。も。は。

疵物。是。別。子。細。也。是。時。分。は。隠。れ
事。は。在。り。疵。見。人。才。見。人。
今。時。も。世。も。無。疵。と。深。辛。人。疵。多。く。是。疵。
物。は。人。才。は。疵。と。思。は。疵。物。は。同。し。御
。疵。も。才。も。長。い。人。と。思。は。是。疵。
中。の。疵。は。疵。の。人。才。は。疵。の。人。才。は。疵。
色。は。疵。人。は。疵。人。は。疵。人。は。疵。

一。疵。物。の。疵。は。疵。人。才。は。疵。人。才。は。疵。
人。情。世。態。は。疵。人。才。は。疵。人。才。は。疵。

酒の儀いしは酒位に心し居るなり。此氣遣ひ止りて
坐なり。此坐同未熟して少量なり。なり。此坐
打不遠くは内ハ玉に活なり。なり。疵地なり。なり。
多し人バく世馬のおく。なり。彼くせと波ーなり。なり。酒
いはれ合点ふなり。酒ハ氣遣ひてなり。なり。是もむに
なり。坐なり。是なり。酒ハ合點なり。酒ハなり。
馬居し者なり。なり。酒ハ能く馬とのなり。者なり。なり。
に馬洲派凍波ーなり。なり。又何れ馬洲派
凍波ーなり。馬も活地なり。なり。の位位なり。なり。なり。

酒の儀いしは酒位に心し居るなり。此氣遣ひ止りて
坐なり。此坐同未熟して少量なり。なり。此坐
打不遠くは内ハ玉に活なり。なり。疵地なり。なり。
多し人バく世馬のおく。なり。彼くせと波ーなり。なり。酒
いはれ合点ふなり。酒ハ氣遣ひてなり。なり。是もむに
なり。坐なり。是なり。酒ハ合點なり。酒ハなり。
馬居し者なり。なり。酒ハ能く馬とのなり。者なり。なり。
に馬洲派凍波ーなり。なり。又何れ馬洲派
凍波ーなり。馬も活地なり。なり。の位位なり。なり。なり。

はふくく。今其古家の住居とは事いふもの。古
事いふ。元来し物ども別り。十分く直さるる
あり。あれ様をわけ。かゝる物とて。當分の物に
ほせをある時。思ひの外なり。而し根柢あり。柱のま
し。家の弱きところ。まさね。古より。思ふ成り事多き
也。愚老ごも。この貧者の古家。住られ。老なり。ハ
け。命とも。守る。有る。又愚老ご。此の年々。二十
も。成人の。身。れ。内。疝氣。此之。も。瘧。も。有る。氣血。弱
減。く。痛。鬱。見。を。た。う。九。は。歳。計。の。比。の。健。さ。め。は。返。る

れ。物。な。身。の。内。年。之。変。有る。病。な。る。瘧。居。は。
る。の。け。れ。れ。物。な。る。粗。忽。なり。醫。者。な。る。當。分。自。然。
ほ。こ。し。く。治。せん。は。れ。病。金。不。り。元。氣。と。そ。
か。い。命。を。縮。じ。類。多。き。な。は。道。理。を。解。く。金。屑。は。は。
る。祖。宗。は。法。に。改。め。物。古。人。の。事。を。知。る。名。を。
な。治。世。衰。る。は。内。明。なり。人情。世。變。熟。練。な
く。當。分。是非。目。新。し。利害。を。思。ひ。か。る。國。乃
古。法。を。改。め。り。不。宜。事。な。る。民。は。安。ん
ず。物。な。久。く。は。守。り。事。な。數。代。し。新。生。れ。ぬ。先。より

聖人の書く遠くへて。君子は信用を金と事とをい
 冥之中と見えきり。鬼神いふこれ物にけり。是
 なり。人のいふ事には。いふなり。聖人の教乃
 か。別鬼神の治。わが海にけり。あらず。不入事と
 せ。い。

ことありて、号令の行ふ處も極むる難い。民を馴らす
 ことの、人より往くも畏れりと。上は人より得ることを成
 心より畏れ、人より思ふよりありりと、思ふより事なし。孔子
 を親^ビ親^ビと喻と云ふは、君も民も信ぜざるも、あるは政の
 行なふ所。師も弟子も信ぜられずりと、教の行なふ
 所。朋友も方。想して人々一人一人の所。うゝかたを以て
 する。信ぜざるを以て合するも人情の常なる。聖人の為せば、

上は地の最上と一は道せんすりてくは。
 是を道の事とせん。上は位遠れ必害多し。下は
 年若く位近し事なり。下は人より
 才智を養われ徳を養ふ事なり。上は
 位を失ひり。論は人不知とふ程と君子と
 上は人の上。上は人より天と相ひはれ。下は
 地なり。下は人より地なり。下は人より地なり。
 其位をば。下は人より地なり。下は人より地なり。
 と求めり。古の人より位なり。上は人の徳を備へ

ねまへ人々あつてすすめを
はくもあなりのなりと共
を踏がくまづかたこれと
やうりりりりりりりり
すまぬかゝておれり。以上

一 陳大猷をすさぶがごとく、宋は、あまぐまれ、辱らるる事
 少なき。それ、言ひて人を誦さんとする事、大猷ハ
 かりぬ事といふ。古く、すし、然、陳大猷ハ先王合葬
 するもの。只、心より、さうさう、さうさう、さうさう、
 移りゆるといふ。さう、ぬ人と、すし、その、さう、すし、
 へ、づ、い、も、ひ、い、孔子、誦、易、も、納、約、

有りしなり。宋儒の説。佛法は佛に在りしなりと
然事なり。其相似をいつたりしなり。宋儒の説は
人欲淨盡て天理渾然なり人を聖人と立た。其を
聖人とす。己が心こそ聖人を如のぶに在るなり
とてわたりをせり。雷又鬼なりと爲さる相
見せぬ物を推量して爲さるを滅しなり。雷は六
をたり。鬼は虎の皮に下帯をいつたり物なり。兒女
心。宋儒の説は後して聖人をあひやりなり。たゞ遠
なりと事なり。聖人のあひ順ひなり。宋儒の教。後

よりなり。相違はあまなり。然るに思量して

上

一 本書よりをり。道をいねるなり。深遠くあり。其
心。只高き鼻の先を物とせしなり。思ふ人
活物なり。夫れは國家を治り。人を教訓するなり。又
人心を治り。本も人形なり。割見なり。おし
なり。如く。醫者乃病を治り。心も同じなり。見たり
なり。咳を止め。瀉を止め。熱を止め。命をも進め。
積塊をも退け。是れは事なり。道とねる醫者

小量なり。大量の人なりとて仁と孝悌といふは必ず
づから。量の大小は明らば。それをも仁の心と孝悌の
事ハ。孝弟忠信中庸に徳行といふ思ふ。是より孝
弟忠信と云ふといふ。是より徳行といふ。君子の仁
と相成といふ。親類といふは言ふ。又孝弟忠信と
忠信といふより。國天下を安んじり徳を求め求む。
初は邪術ふといふ。又孝弟忠信。子思子の
書を傳へ其ゆゑをいふ。これ事とて云ふ。は量の
大小は徳の教の名目ハ別とて云ふ。道ハ一箇なりと

より別の道を言ふ。より一箇工吏と云ふ。
一 詩文章は學ハ其義なり徳の徳ハ其思ふなり。宋儒の詞
章記誦なり。より一箇年久なり。徳の徳ハ其思ふなり。
より一箇徳なり。より一箇徳なり。是は徳なり。
吾邦の和歌なり。徳の徳ハ其思ふなり。徳の徳ハ其思ふなり。
説たの徳なり。又國天下と云ふ。徳の徳ハ其思ふなり。
古の人なり。徳の徳ハ其思ふなり。徳の徳ハ其思ふなり。
より一箇徳なり。より一箇徳なり。徳の徳ハ其思ふなり。
國の風俗なり。徳の徳ハ其思ふなり。徳の徳ハ其思ふなり。

是をそひいそりて乃其の便に成すべし。之をふと
巧かして人情をよめるべし。さうして自然と心あなさを
理も通す。又道理の上よりいへば見えて世の風俗國
の風俗もよく移り。その心その徳よく人情よく是なり。高
き位より賤き人の事をいふなり。男が女のことゆきともなり
又かゝる此の愚なり人の心わらひともなり。是の作
又詞の巧なり拙なり也。其のさうして自然と心さ
人々を得るなり。是なり。人を教へ諭し諷諷するに
是多し。此の理密なり。即ち君子の風俗風俗といふ也

乃其の事ハ是よりいへば今得なり。即ち後世の詩文
章ハ是を祖述す。即ち時代進み今ハ成安き物多
し。右の心なり。其のさうして其の多し。即ち又其の邦を
學問といふなり。聖人といへば唐人の經書といへば唐人
の言ふなり。又字をいへば今得なり。即ち聖人の道
難得なり。又字を今得なり。古の人乃書をいへば
其の心持なり。成なり。其の漸なり。即ち文章をいへば
其の心持なり。今得難事多し。經書計其の人心なり。其の
あるは言ふなり。其の理なり。其の心なり。其の言なり。其の

